

## 令和5年度 第2回

### アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録（案）

- 日 時：令和5年12月14日（木）10時00分～11時30分
- 場 所：フェリエ 5階 市民交流プラザ 大会議室
- 出席委員：肥塚座長、加藤副座長、岡井委員、高田委員、田畑委員、  
秦委員、木村委員、有村委員、笠井委員、小林委員、卓委員
- 欠席委員：清家委員、神部委員、東野委員、磯部委員、中野委員、正木委員、  
木村委員
- 傍聴者：なし
- 事務局：総合政策部 岡田理事  
草津未来研究所 角副所長、竹中チーフディレクター、山口ディレクター
- オブザーバー：なし

#### 1.開会

##### 【事務局】

定刻となりましたので、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催いたします。

はじめに、総合政策部理事の岡田が御挨拶を申し上げます。

##### 【岡田理事】

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。総合政策部 理事の岡田でございます。

さて、令和5年度も残すところ3ヵ月半ということで、市の各種事業も終盤に差し掛かっていくところでございます。

アーバンデザインセンターびわこ・くさつとしましては、本年度、事業間の連携や長期的な見通しを持った都市デザイン・まちづくりの構想に向けた取り組みに重点を置きながら事業に取り組んでいるところでございます。

アーバンデザインセンターびわこ・くさつが魅力あるまちづくりを進められますよう、産・学・民の多様な観点から忌憚のない御議論、御意見をいただきますようお願い申し上げます。私からの御挨拶といたします。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

##### 【事務局】

それでは、次第に従い、議事を進めてまいりたいと思います。

本日の議事の進行については、座長の肥塚様をお願いしたいと思います。肥塚座長よろしくよろしくお願いいたします。

##### 【座長】

皆さん、おはようございます。年末の慌ただしい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日は、令和5年度のUDCBKの実施事業中間報告とUDCBKの今後のあり方についての協議の2つの議題が用意されているところでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、UDCBK 令和5年度実施事業の中間報告からお願い

します。

## 2. 報告

### 【事務局】

※資料1『UDCBK 令和5年度 実施事業（中間報告）』に基づき説明。

### 【座長】

それでは、御報告ということでございますので、御質問等をいただければと思います。

### 【A 委員】

今回新しいスクール事業にこだわって実施されたということですが、参加者数が増えたように思っており、前回の懇話会の中で、お声かけを中心にされるという話があったと思いますが、何か他に周知で工夫された点あれば教えてもらえたらと思います。

### 【事務局】

前回の懇話会の中でもお話ししたようにお声かけを中心に周知をしております。

変わった方法は特にありませんが、これまでと同様にホームページや SNS においても周知をしております。その中で皆様に興味を持っていただき、まちのことを自分ごととしてとらえていただける方に参加いただけているのではないかと思います。

あとは地域の方にもお声かけをさせていただきましたので、そのあたりで周知が進んだのではないかなと思っております。

### 【A 委員】

ぜひ、もっとたくさんの方に知っていただけたらなと思っております。先ほども SNS を見させていただきますと、ミナクサボード (MINAKUSA BOARD) をインスタグラムで見ましたが、そのように利用者の方にアンケートする中で、「こういう発信方法だったらもっと広がるんじゃないか」とか、中・高生や大学生をもっと巻き込んでいきたいとの話もありましたので、彼らがどういうものをよく見ているのかというところをアンケートで取っていただけたら、たくさんの方に参加いただけたりするのかなと感じました。

### 【B 委員】

私自身もいろんなスクールに参加させていただき非常に参加人数が増えたなという実感がございます。そして、先ほどのミナクサボード等いろいろな発信がとても結果を出しているように思いますし、UDCBK の方がいろいろ努力して発信しておられることも実感として感じているところです。

一方で、スクールに参加して思うのは、若い方は興味があるところにしか見に行かない、インスタグラムにしても興味のない多くの情報は飛ばされているように思います。UDCBK のオープンスペースやスクールについても、何かの繋がりがあって呼ばれたので参加するという動きが広がっていますが、これからは全く興味がないような方に対してもわざわざ自分から情報を取りに行かなくても情報を伝えられるような環境、例えば、南草津駅のエスカレーターの壁に UDCBK の事業内容やまちづくりの取り組みがわかるようなものが掲示されていると、移動する中で自然と目に入るようになると思います。

また、多様な主体と連携して外（駅前広場や東山道記念公園等）でイベント等を実施するときにも、スローガンのような「UDCBK というところがあって、そこでプロジェクトに取り組んでいますよ」ということがわかるようなもの（看板や横断幕等）をその

都度設置するような形で、興味がない人や SNS を使わない方にも発信していくような方法を考えていただければと思います。地域に詳しい高齢者の方も巻き込んでいけるようになっていただければと思います。

#### 【事務局】

おっしゃる通り、現在はまちづくりに興味がある方にスクールやセミナーへ参加していただいています。まずはそこが大事であると思いますが、いま御意見いただいたような関心のない方の意見やその取り込み方を考えることは大切だと思います。

予算的な課題もごさいますが、駅構内の壁面広告等を参考にしながら様々な方から意見をいただけるように工夫を考えていきたいと思っています。

#### 【C 委員】

社会的に令和 5 年度はコロナ禍明けの年度になると思いますが、今年度の活動はコロナ禍のときと比べて、あるいは、それ以前と比べてどのように評価されますか？ 以前のよう状態に戻ってきているとかそのような観点から教えてください。

#### 【事務局】

資料にあるスクールの参加者につきましては、会場における実際の参加人数になりまして、各回 40 名程度の方に御参加いただいております。

コロナ禍においてはオンラインを活用しながらスクールを実施しております、実際に会場に来ることなくオンラインのみで参加される方も多数おられましたが、今年からは南草津に成果を還元することを目的にしておりますので、「これからの南草津をどうしていくか」について自分ごととしてとらえていただける方々に実際に会場に来ていただきたいと考えておりまして、オンラインを活用せずに事業を進めております。

この形式に変えたことがよかったのかはわかりませんが、実際にコロナがあけて対面でスクール実施することができ、参加者が戻ってきている実感はございます。

#### 【D 委員】

ミナクサこだわりマルシェについて、こちらの主催者はどなたですか？ また、このような事業の継続性についてお聞きしたいと思います。

#### 【事務局】

ミナクサこだわりマルシェにつきましては、地域住民の活動団体が中心となり実行委員会を立ち上げて企画・運営しております、その実行委員会の中に草津市の関係課や UDCBK も参画しているような状況でございます。

こちらのマルシェは南草津駅の西口にある東山道公園をうまく活用したいという思いから令和 4 年度から開催しているものであり、今後も継続的に実施していく予定をしているところです。

#### 【D 委員】

公園の利用価値は非常に高いと思います。人の移動や交わりが多い駅前の公共空間をどれだけ使いこなせるか、使える場所がどこにあるのかということも UDCBK から提案したり、情報提供していければ、市民の活動が生まれやすくなるのではないかと思います。

**【E 委員】**

面白そうな活動がたくさんある中で、例えば、リサイクル資材を活用したファニチャー設置による滞留空間創出の社会実験やマルシェもそうですが、実際にこういう具体的な活動をやって、現地に来ていただいた方々の生の反応をお伺いしたい。

実際に事業をしてみてUDCBKとしてギャップがあったのか、期待値を超えたのか、それ以下だったのか、他にも、こんなはずじゃなかったっていう活動ももしかしたらあるのかなと思います、リアルなお話を聞かせいただければと思います。

**【事務局】**

まず、リサイクル資材を活用した社会実験につきましては、滋賀県立大学の先生に事業の集計をしていただいているところで、成果報告をいただいているような状態ですので、わからないですが、マルシェについては、西口に公園があることが非常にわかりづらい地形になっているという声をいただいております、社会実験やマルシェを開催することによって駅前広場や東山道記念公園の人の流れがわかったという成果があったと実感しています。

また、別の事業ですが、スクールのワークショップの中でも、西口はマルシェのような催しを開催してみたいというお声をいただいております、そのような使い方が求められているようにも感じております。

南草津はマンションが多い地域ですが、マンション住まいの方が気軽に集まれる場所がこの地域に少なく、駅前広場や東山道記念公園をうまく活用することができればにぎわいにつながってくるのではないかとこのところが社会実験やマルシェ、スクールを実施する中で気づけたことかなと思います。

その他については、今のところは分析の段階ですので、結果が思わしくなかったというところは特にございません。

**【E 委員】**

マルシェを開催するプロセスで、駅前に公園があることを知らない人がたくさんいた、それがわかったということが価値かなと思います。公共空間を利用すること以前に、「公共空間がこんなにあるんだよ」というインフォメーションが、そもそもベースの活動としてあったらもっと活動が広がるのではないかと感じた次第です。

**【座長】**

御意見ありがとうございます。

それでは協議事項ということでございまして、今後のUDCBKのあり方について御報告をお願いいたします。

**3. 協議**

**【事務局】**

※資料2『今後のUDCBKのあり方について』に基づき説明。

**【座長】**

追加で都市再生推進法人について御説明いただけますでしょうか？

**【事務局】**

都市再生推進法人は都市再生整備計画の対象エリアの中で事業等を行っていくにあ

たってメリットがある法人になります。

草津市から指定を受ける必要がございますが、この法人になることでエリアマネジメントをしていく上での優遇される制度があり、それらの制度を活用しながらUDCとしてまちづくりを進めるのが良いのではないかと考えております。

**【座長】**

続いて質問ですが、資料の中でエリアと書かれていますが、このエリアは南草津と理解して問題ないでしょうか？

また、この内容は「今後こういうことを考えていきたい」ということで市から御提案いただいているところかと思いますが、今回や次回の懇話会の中で協議をさせてもらって、これはいつぐらいから導入されていく想定をされていますか。もちろん、現時点での予定で構いません。

**【事務局】**

エリアについては、おっしゃる通り南草津駅を中心とするエリアを対象にしていきたいと考えております。

また、いつ頃にこのプラットフォームを構築するかということでございますが、現時点の想定としては来年度の1年をかけてこのプラットフォームの構成員の検討や調整をしていきたいと考えておりまして、できれば来年度の年度末か再来年度の年度当初をめどに出来上がっているような状態にしたいと考えているところです。

**【座長】**

では、このように市の考えを提示いただきましたので、皆様から御質問や御意見をいただきたいと思います。

**【F 委員】**

いまの御説明では、対象となるまちづくり協議会は玉川学区と老上学区になるということですが、そうすると対象となるエリアも玉川学区と老上学区になるということですか？

**【事務局】**

現在、対象エリアを南草津駅周辺ということで検討しておりますので、南草津駅の東西のまちづくり協議会である玉川学区と老上学区をプラットフォームのメンバーとして考えています。

もし、矢倉学区も近いので、そちらに入ってもらおうかどうかについては別途考えないといけないですが、現在は南草津駅の東西を対象に考えておりますので、玉川学区と老上学区だけを対象としております。

**【F 委員】**

私は草津駅の方でも商工会議所として中心市街地活性化協議会（以下、「中活協」という）に参画しておりまして、事務局をまちづくり会社と共同でやっています。草津駅の方でもこのようなエリアプラットフォームの形態で進んでいる状況ですが、南草津と草津ではまちの成り立ちが全然違いまして、エリアもすでに確定しておりますし、市からの関与も深いような状況です。

そこで質問ですが、全国のUDCにおいてもこのような形態でまちづくりを考えているのでしょうか？

また、エリアについても先ほど申しました草津駅の方はすでに区画が決まっておりますが、南草津駅の方は何かぼやっとした感じがしたので、このあたりについても来年度1年をかけて検討していくということでしょうか？

先月実施されましたみなくさまつりがございますが、そちらでは矢倉学区や老上西学区も入っているので、そのあたりもお伺いできればと思います。

#### 【事務局】

まず、全国のUDCにおけるエリアプラットフォームについては、実はUDCBKが特殊な形態をしております、全国のUDCが持っているエリアプラットフォームの形式は資料で説明した利害関係を巻き込んだ形式のものがオーソドックスな考え方でございます。例えば、昨年度視察に伺ったUDCO（大宮）もこのような形式でプラットフォームを構築されております。

また、対象となるエリアについては、実は草津駅の方のまちづくり会社や中活協を参考にしながら検討をしているところでございます。草津駅の方では中心市街地活性化計画に定められたエリアが対象になっておりますが、こちらはそういったものがございません。どのような形でそのエリアを定めていくかというのは検討する必要があると思っておりますが、例えば、立地適正化計画の都市機能誘導区域などを参考にしながら対象エリアを考えていきたいと思っております、このような流れでいくと玉川学区と老上学区が対象になってくるかなと考えているところです。

このような考えから、みなくさまつりとしては矢倉学区や老上西学区が関わっておられるかもしれませんが、祭りとはエリアは切り離して考えていけたらなと考えております。

#### 【F委員】

みなくさまつりの発端は南草津駅に新快速が停車することを記念して実施されたもので、新快速の停車を目指す同盟が元になっており、そこに矢倉学区等も参画していたような経過がございます。

#### 【座長】

どういう結論になるにしても、いろんな経緯を市で整理をしていただいて、今後のことは皆様から御意見をいただく中で詰めていただければ良いと思います。

#### 【B委員】

まず、都市再生推進法人のデメリットとして、指定が後で取り消されるようなことはあるのでしょうか。

もう一つは、先ほどお話があったように玉川学区や老上学区は南草津駅の東西に位置するということが重要な地域だと思いますが、この南草津駅周辺を利用する方は玉川学区や老上学区だけではないので、まちづくり協議会という形だけに限らず、その利用される方の意見が反映されるようにしてもらいたいと思います。

#### 【事務局】

都市再生推進法人になるには、いくつかの条件はございますが、草津市から指定を受けた後に取り消されるというのは、よほどのことがないと起こらないと思いますので、まちづくりの事業をしていないとかそのようなことがない限り、取り消し等はないと思っております。

それから、玉川学区や老上学区以外の市民の意見が反映されないのではないかと

御意見ですが、プラットフォームの中にも市民を位置付けておまして、エリア外の方の意見が反映されないということは起こらないと思います。例えば、東山道記念公園を使いたい方々が老上西学区におられるということであれば、このプラットフォームの中のデザイン会議のメンバーになっていただいて、実際にプロジェクトを進めていく側に回っていただきたいと考えております。

#### 【G 委員】

今回、今後の UDCBK についてということでどういう形の法人化を目指しておられるのか御説明をいただいた方がいかなと思えました。

先ほどのエリアの話ですが、事務局から御説明がありましたように、南草津駅周辺の都市機能誘導区域というエリアを対象にしますが、そこに住んでいる人に限定されるわけではなく、その場所を使う人が対象になるイメージであり、対象エリアのまちを良くすることのためにエリアを区切るといような考えかかなと思えます。

また、法人化を進める中で都市再生推進法人の指定を受けることにより、東山道記念公園や野路で計画されている公園の整備を検討するにあたって、Park-PFI を活用した官民連携の整備が導入されれば、この都市再生推進法人がその主体を担いながら何らかの収益も上げて公園の維持管理を行うこともできると思えます。

さらに、その維持管理を行うにあたって市民にお花が好きな方がいらっしゃれば、花壇の維持管理を活動グループで引き受けていただいて、今までは市が業者に委託していたところで市民の力を借りることができれば、市の財政的な負担軽減にもなり、市民にとってもマンションに暮らしている方が公園で自分の庭のようにガーデニングを楽しめるというような関わり方があるのかなと思えます。

そういう意味で、先程の報告の中であつた掲示板を活用して「私はこんなことがやりたい」といようなことを書いてもらったり、逆に「こういうことができる人を募集します」といような大きく2つに切り分けをして、やりたい人とこういうことをしてほしいという人がマッチングできるようになれば、エリアプラットフォームとしての役割を持たせていけるのではないかと考えております。

#### 【事務局】

まずはエリアプラットフォームの構築をしていきたいと御説明をさせていただきましたが、そうした中で、いままでのように UDCBK を市の事業として継続する方がいいのか、あるいは、法人化して事業を実施する方がいいのか、ここはまだまだ議論が必要でございますが、UDCBK としてこの都市再生推進法人を取ろうとするのであれば、法人化も同時に検討することになると思えます。

#### 【H 委員】

調べていますと柏市にも UDC がありますが、この都市再生推進法人については法人を指定するという事なので、いまの UDCBK が現状のまま指定を受けることはできないということですね。

#### 【座長】

対象エリアをどうするのかということも大切なことですが、どういう法人にするのかということも含めまして来年度に議論していきたいというところかと思えます。

#### 【I 委員】

今年度からこの懇話会に入らせていただいて UDCBK がようやくセカンドステージ

に入るタイミングになったのだろうなというふうに思います。

ミッションに掲げられるように、これまで UDCBK はどうあるべきか検討したり、学習事業や社会実験を積み重ねたりということで、関心のある人が UDCBK に集まり始めてきて、社会実験やマルシェなど具体的な行動も動き始めているというように感じておりますので、このタイミングで今年度の取り組みの成果を生かしながらエリアプラットフォームの検討を始めたり、あるいは、UDCBK が法人化して実際にまちを動かしていく事務局やコーディネーターを担っていくというのはとてもいいタイミングかなと思っておりますので、私も微力ながらこれからお手伝いできればと思っております。

**【座長】**

市がどのように考えているのかということ、また、今後の方向性について共有ができたと思います。今回この懇話会で UDCBK のあり方の具体的な案を示していただいたことは大変画期的なことかなと思っております。

ありがとうございました。

**4. 閉会**

**【座長】**

それでは、本日の議題はここまででございますので、進行を事務局にお返しいたします。

**【事務局】**

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただき、また、貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日、皆様からいただいた御意見については、今後のUDCBKの運営および事業展開に反映いたしたいと考えておりますので、引き続きお力添えいただきますようよろしく願いいたします。

それでは、本日の運営懇話会を閉会いたします。